MUSASHINO for TOMORROW Vol.97

巻　頭

リスト生誕200年に寄せて

福田　弥

Campus Eye

“音楽の名手”を目指す日々の研鑽

～武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科に学んで～

表紙：堀内康雄（声楽）

April 2011
vol.97

平成23年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長　同附属高等学校校長　福井直敬

昨年夏の猛暑とは裏腹に、この冬は全国各地が豪雪に見舞われ大きな被害が出ましたが、季節の巡りは違うことなく、キャンパスの木々にはすでに春の陽光がふり注いでいます。異常気象のみならず政治、経済、環境、雇用など、わが国は諸々の困難を抱え社会が慌ただしく揺れる中、平成23年の新年度を迎えました。

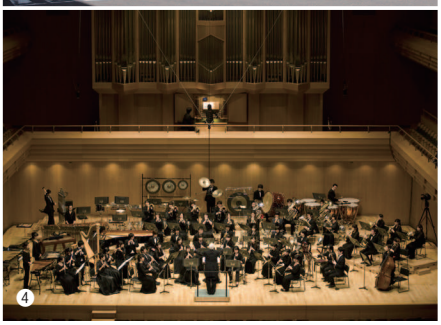
幸い本学では、大学院、音楽学部ともに、全国から昨年に増して多くの意欲溢れる新入生諸君を迎え、また新たな決意のもとに新学年の学事が始まります。

幅広い年齢層の者を学生として受け入れ、個々の学修意欲に応えるとともに能力の向上に寄与することは大学の社会的貢献の一環であると言われますが、本学ではこれを目的として新年度から「大学別科」を開設しました。予想を遙かに超える多数の入学志願者の応募がありましたので、それぞれが目ざすさまざまな学修目的に沿うことができるよう、鋭意開設の準備に取り組んでまいりました。

わが国社会では、25歳を越えて学士課程等に学ぶ者の割合は入学者の僅か2％と言われ、OECD平均の21％と比べて極めて低い水準にあるのが実態ですが、1年間の課程とは言え環境と条件さえ整えば、音楽の学修を強く望む人たちが潜在的に多数存在することを知り、大変喜ばしく思っています。今年が初めての年度となりますので、教育環境には細心の注意を払い、その向上に引き続き努力を傾けていく所存であります。

さて、新年度も学生・生徒諸君のために、研究成果発表の機会を可能な限り設定してまいります。中でも本学同窓会組織の支援によるオーケストラ、ウィンドアンサンブルの恒例の演奏旅行等は、本学ならではの自負すべき企画であり、教育上の効果のみならず、学生諸君にとっては生涯忘れることのない良き青春の思い出となることでしょう。

前号でも述べましたように、少子高齢化の進行など激しい社会の変遷の中で、教育機関は今、厳しい試練に直面しております。関係者一同、新年度もまた教育研究の質保証と健全な経営の維持に一層の努力を傾注する決意でありますので、皆様の変わらぬご鞭撻をお願い申し上げますとともに、同窓生諸氏のご支援に深く感謝の意を表します。



①武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会（2010年 12月 東京芸術劇場 大ホール）　②③入間キャンパス
④武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会（2010年 12月 東京オペラシティコンサートホール）　⑤江古田キャンパス

リスト生誕200年に寄せて

福田 弥
（武蔵野音楽大学講師）

リスト・イヤー

今年2011年は、19世紀の音楽家フランツ・リスト（1811-86）の生誕200年です。ヨーロッパ各地では、リストに関するイヴェントが目白押しです。とくに彼とかかわり合いの深かった地域、ヴァイマルを中心とするドイツのチューリンゲン地方、ブダペスト、生地ライディングなどでは、1年を通じて彼にまつわる記念行事がすでにスタートしています。たとえばチューリンゲン地方ではリストにまつわる200のイヴェントが企画されていますし、フランスの三都市では9月末に、さらにブダペストでも11月半ばにリストの国際会議が開催予定です。生地ライディングは小さい村にもかかわらず、数年前にリストの生家の隣りに、近代的なコンサート・ホールが建てられ、今回はそこでポゴレリッチやバレンボイムなどの著名な演奏家を集めて、4回に分けて音楽祭が行われます（1回目は1月下旬に終了）。

もちろんリストのピアノ作品は世界中で演奏されますが、ここではピアノ以外のジャンルについて、少し触れてみましょう。リストの最高傑作のひとつ《ファウスト交響曲》の演奏も各地で予定されています。とくに注目すべきは、1857年にヴァイマルで行われたゲーテ-シラー記念碑除幕式典の演奏会を、そのヴァイマルにおいて再現しようという企画です。この式典は《ファウスト交響曲》と交響詩《理想》が初演されたことでも知られています。ライディングでは、交響詩全13曲や《伝説》のオーケストラ稿を含むオーケストラ作品のチクルスがあります。オルガン・チクルスはブダペストとドレスデンで行われ、ブダペストの企画はオルガンのための全作品（約40曲）を網羅しよ

▲ ヴァイマル宮廷劇場とゲーテ-シラー記念像（1890年頃）

福田 弥 *Wataru Fukuda*

1966年水戸生まれ。'90年に慶應義塾大学文学部卒業、'94年同大学院文学研究科修士課程修了、'99年同後期博士課程単位取得退学。'95-'97年に、ハンガリー政府国費奨学生として、ブダペストのハンガリー国立リスト音楽院に留学。客員研究員としてリストの自筆譜などの調査に当たる。音楽学、西洋音楽史学専攻（フランツ・リスト研究）。著書『リスト作曲家　人と作品シリーズ』（音楽之友社'05年）。共著『進化するモーツァルト』樋口隆一編著（春秋社'07年）。論文"An unknown version of "Cantico di San Francesco"" (Liszt Society Journal vol. 23, '98）など。武蔵野音楽大学専任講師。日本音楽学会、美学会等会員。

▲ リストの生家（1890年頃）

▲ ナンシ・メリアンヌによる
水彩画（1836年）

うという意欲的なものです。さらに、今年最も期待される演目のひとつが、ハンガリーの北部の都市ミシュコルツで行われる、リストのオペラ《ドン・サンシュ》の舞台上演でしょう。1825年、パリに出てきたばかりの13歳のリストが、パエールの援助を受けながら作曲したと考えられている作品で、リストがその生涯において唯一、完成させたオペラです。この溌剌とした作品は、コンサート形式では数年前に上演されたことがあり（筆者はハンガリー留学中に接する機会がありました）、CDも出ていますが、舞台としては復活上演と言えるでしょう。

さらに、リスト畢生の大作オラトリオ《キリスト》。こちらは1860年代までのリストの集大成とも言うべき大作で、例年ですとヨーロッパでは数年に一度、演奏される程度ですが、今年はブダペスト、エアフルトをはじめとして幾度も演奏される予定です。とくにリストの誕生日10月22日「ワールド・リスト・デー」には、各地での同時演奏を呼びかけています。もうひとつのオラトリオ《聖エリザベトの伝説》もエアフルトで行われる予定です。オラトリオ以外にリストが力を注いだ宗教曲はミサ曲で、生涯に5曲作曲しています。グノーを別にすれば、19世紀ロマン派の大作曲家の中では、この数字はかなり多い数といえるでしょう。しかもリストの場合は、ベルリオーズなどとはまったく異なり、ミサ曲のテクスト（典礼文）に手を加えることは一切していません。ブダペストでは、その5曲すべてが演奏されます。さらに、最晩年の傑作《十字架の道行き》の演奏も忘れてはなりません。

こうした世界の状況に対して、日本ではピアノ曲以外の演奏は、なかなか難しい環境にあるのかもしれません。しかし、《ファウスト交響曲》の演奏は3回もあります（うち、2回はすでに終了しました）。これは快挙と言うべきでしょう。こうした大編成の作品の演奏は、経済的にもなかなか困難を伴うでしょうが、小編成の宗教的合唱曲や室内楽曲などは、もう少し日本でも知名度が上がってもいいように思います。

こうして世界の「リスト・イヤー」を足早に見渡してみただけでも、ヨーロッパでは、ピアノ曲ばかりでなく、管弦楽曲と宗教曲にもかなりの関心が向けられていることがお判り頂けると思います。

生涯

9歳でデビューしてから、1847年に35歳という若さで引退するまで、リストはおもにピアニストとして活動しました。彼は1823年、12歳でヨーロッパ文化の中心地パリに出てきて、その後の十代を過ごしたわけで、彼の精神的土壌はパリで培われていきました。たとえばリストが最も上手に喋れた言語はフランス語でした。つまりこうした点が、同じ東ヨーロッパからやって来たとはいえ、21歳になってパリに住み始めたショパンとは、大きく異なっているわけです。

その後、1848-61年には中部ドイツのヴァイマルに定住し、宮廷楽長を務めます。1861-69年にはローマに住み、亡くなる1886年までの17年間は、1年を3つの都市（ブダペスト、ヴァイマル、ローマ）で住み分ける生活を送りました。リスト自身は、これを「三分割された生活」と呼んでいます。亡くなるまでの十数年、ローマの住居は有名なエステ荘でした。1880年代になると、リストの体力の低下は顕著になり、1886年7月31日にバイ

▲ ヴァイマルのリスト記念館（1890年頃）

▲ ブダペスト　旧リスト音楽院　2階は晩年のリストの住居でもあった(1982年撮影)

ロイトで客死します。

彼が生涯にわたって書き続けたジャンルはピアノ曲と歌曲ですが、ヴァイマル時代には、管弦楽曲(交響詩)に取り組むと同時に、ピアニスト時代の作品の改訂に精を出しました。ローマ時代は、宗教的声楽曲、なかでもオラトリオとミサ曲に集中的に取り組んでいます。そして最晩年は無調音楽へと向かっていったのです。

多岐にわたる活動

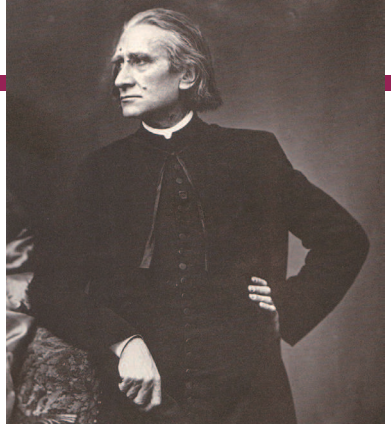
リストというと、いまだにピアノの大ヴィルトゥオーソ、超絶技巧で華やかな作品の作曲家というイメージが流布しているかもしれません。彼は19世紀ヨーロッパ楽壇の中心人物であり、彼と接触のなかった同時代の音楽家はほとんどいなかったと言えるほど、その活動は幅広いものでした。前の世代であるサリエリやベートーヴェンから、次世代のドビュッシー、ブゾーニなどに至るまでの幅広い交流が知られていますし、晩年にはさまざまな国籍の若い音楽家が、リストから推薦状やアドヴァイスをもらうために集まってきました。また彼が活躍した地域は、パリ、ヴァイマル、ブダペスト、ローマなど複数の国にまたがり、ピアニスト時代には、文字通り全ヨーロッパの主要都市に足跡を残しました。ピアノの改良、リサイタルの創始、楽譜の出版、編曲、批評、標題音楽(交響詩の創始)と絶対音楽、カトリックの教会音楽の改革(セシリア運動)、和声の革新(無調)、音楽におけるナショナリズム、音楽院における教育活動など、19世紀のヨーロッパ音楽に見てとれるさまざまな問題と、少なからずリストは関係があります。彼を知ることで、19世紀のヨーロッパ音楽のさまざまな側面が見えてくるわけです。

リストが書き残したジャンルも多様です。ニュー・グローヴの作品表によれば、ピアノ曲(約430曲)以外は、室内楽曲(約20曲)、オルガン曲(約40曲)、管弦楽曲(40曲)、協奏的作品(15曲)、宗教的合唱曲(約70曲)、世俗合唱曲(約50曲)、歌曲(約90曲)などとなっています。ただし、ひとつの作品が、いくつものジャンルにまたがって編曲されている場合もあり、各ジャンルは密接な関係にあります。したがって、(リストに限った話ではありませんが)ピアノ曲を知るためには、ほかのジャンルにも当然ながら精通している必要があります。

リストの音楽観

「音楽は本質的に宗教的です。…言葉と音楽は結びついているのですから、音楽が神への賛美を歌い、有限と無限というふたつの世界の交わりに仕える以上に、その力がもつふさわしい役目があるでしょうか。そうした特権は音楽のものです」(リストの1865年の書簡)。「人間性自体には、残忍、野蛮、肉欲という本能が認められますが、それを和らげ、穏やかにし、気高くすることが、芸術の使命です。オルフェウス、すなわち芸術は…互いに傷つけあい、個人の心と社会の内部で血を流しあうような対立するものに対して、柔らかく抗し難い光のように、響きます」(交響詩《オルフェウス》の1856年の初版に付けられた序文)。生きることに伴う苦

▲ カウルバッハによる油彩画(1857年)



▲1866年の写真

しみからの解放・救済、それこそが芸術の使命であり、音楽は「本質的に宗教的」であるがゆえに、この救済という役割を担い、人間と神との仲介となるという思想。人間の救済、こうした宗教にも似た音楽の役割、それこそがリストがめざした芸術宗教であり、彼の壮大な理想の世界でした。彼の優れた作品の多くは、こうした音楽観に基づいているのです。

そして1877年頃からリストは、重度の神経衰弱に陥り、死による魂の救済を望んでいたことが、彼の書簡から窺えます。それと並行して、彼の作風は急激に前衛的になり、一気に無調音楽へと向かいました。苦悩や不安を表現するために、無調が有効な手段であることを、彼はすでに見抜いていたに違いありません。不安とそこからの救済。彼にとって、無調音楽と宗教音楽は表裏一体の表現であったのでしょう。そうした代表作が、1879年に完成した宗教曲《十字架の道行き》で、晩年の最高傑作と見なされています。

一方、音楽家としての彼の生き様は、1830年代の自由主義カトリシズムやサン＝シモニズムからも影響を受けたと考えられています。たとえばパガニーニが1840年に亡くなった際には次のように書いています。「芸術家にとって、ヴィルトゥオージティーは手段であって、目的とならないことを望みます。その際、貴族と同じに、あるいは貴族以上に、天才は[社会に対して]義務を負っていることを忘れませんように！」。ここには、天才は社会に対して大きな役割を担うべきであるという考えが見てとれるでしょう。

亡くなるまでの17年間にわたっての「三分割された生活」は、おもにヴァイマルとブダペストで後進の指導に当たるためでした。無料で多くの弟子を育てることで、若き日に身につけたこうした思想を実践していたと思われます。その甲斐あって、彼の多くの弟子たちが、20世紀前半まで活躍しつづけることになりました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

彼の優れた音楽作品は叙事詩に匹敵する雄大な世界観を示しており、そこには芸術宗教とも言うべき性質を見出すことができます。そして彼自身の生き方は、才能ある者は社会に貢献すべきであるという思想に基づいていました。「音楽とは何か」「芸術とは何か」、これは芸術に関わる者にとって本質的な問いと言えるでしょう。「社会のための芸術」、これこそが、リストが見出した、彼なりの答えだったと言えます。

音楽の万華鏡 ⑮

声楽と器楽 ― ラファエロの「聖チェチリア」

イタリア・ルネサンスの芸術家ラファエロ(1483－1520)の描いた「聖チェチリア」(1516)は、この街のサン・ジョヴァンニ・イン・モンテ教会の聖チェチリアの聖遺物の前で幻視を見た女性が画家に制作を依頼したと言われている。1798年にナポレオンがこの祭壇画をフランスに持ち去ったものの、ナポレオン失脚後の1815年にはフランスから返却され、それ以来ボローニャの絵画館に、この街の唯一のラファエロの作品として保存されている。純粋さ、けがれのなさを主題にしたこの絵では、聖チェチリアを中心に、左側の聖ヨハネと聖パウロはけがれのなさの象徴、右側の聖アウグスティヌスと聖マグダラのマリアは過ちを犯したのちに償いによって純粋性を得た象徴として描かれている。もちろん聖チェチリア自身も清らかさの象徴である。それは伝えられた逸話が「奏楽が流れるなか、チェチリアは歌いながら祈った」と誤って解釈されたためである。彼女は15世紀末から急に音楽の守護聖人として登場、ラファエロやルーベンスを始めとする画家たちがオルガンを弾く姿で数多く描き、詩と音楽でも賛美された。

しかし、この絵で注目されるのは、聖チェチリアの足元にヴィオラ・ダ・ガンバ、フルート、タンバリン、シンバル、トライアングルといった楽器が壊れた状態で置かれ、彼女が下向きに手にしているオルガンから、パイプが2本飛び出していることであろう。ここでは楽器はみだらで、世俗的な音楽の象徴なのであり、絵の上方に描かれた自然で、清らかな天使たちの音楽と競うことすらできない。天使たちの歌声はもっとも直接的に神を賛美するからである。聖チェチリアもオルガンの演奏をやめ、眼差しを天に向けている。つまりこの絵は、当時は器楽より声楽が高い位置を占めていたことを表しているのである。16世紀初頭には器楽は声楽の伴奏や声楽曲の器楽用編曲を、主に即興的に演奏していた。そしてこの世紀の進むうちに器楽の独立性はようやく次第に高まっていくのである。

寺本まり子(本学音楽学教授)

Campus Eye

“音楽の名手”を目指す日々の研鑽

～武蔵野音楽大学 ヴィルトゥオーソ学科に学んで～

早くから目的意識を持ち、プロの演奏家を目指す学生のために、演奏実技主体のカリキュラムで構成された武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科。武蔵野のなかでは、前号でご紹介した「音楽環境運営学科」と並んで新しい学科です。今回のキャンパス・アイでは、同学科に学ぶ5名に集まってもらい、福井直昭教授の司会のもとお話を伺いました。（2011年2月収録、文責編集部）

はじめに

川﨑　「ヴィルトゥオーソ」という言葉はイタリア語で「音楽の名手」とか、「音楽の技術に特に長けた人」というような意味です。この学科は、将来プロの演奏家を目指そうという学生のために平成18年度に開設されました。

平成21年度に学部としてのヴィルトゥオーソ学科は完成年度を迎えましたが、音楽の世界というのはまだまだ奥深いものがあります。更に技量を専門的に伸ばしたいという要望に応える形で、大学院の器楽専攻と声楽専攻の中にヴィルトゥオーソコースを設置し、こちらも4月より、完成年度を迎えることになりました。今日は自分たちの学んできたことを振り返り、将来この学科を目指す後輩たちにも役立つようなお話を聞かせていただきたいと思います。

福井直昭教授 *Naoaki Fukui*

慶應義塾大学経済学部卒業後、ピアノをE.トゥシャ教授に師事し武蔵野音楽大学大学院修士課程を修了、クロイツァー賞を受賞。1999年ブルガリア国際コンクール全部門グランプリ受賞。ピアノソリストとして国内外の著名オーケストラと、また室内楽の分野で著名演奏家と数多く共演。現在、武蔵野音楽大学図書館・楽器博物館館長、教授。

川﨑 隆教授 *Takashi Kawasaki*

昭和34年武蔵野音楽大学卒業（ピアノ専攻）、昭和35年同専攻科修了。武蔵野音楽大学音楽学部ヴィルトゥオーソ学科長。

ヴィルトゥオーソ学科の特色

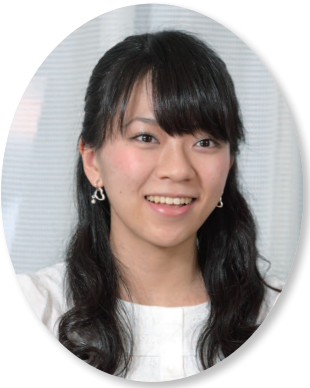
福井　ヴィルトゥオーソ学科の特徴として、まず1回90分のレッスン、長時間の公開による実技試験などが挙げられます。その他、学内外で演奏する機会も他学科に比べて多く、カリキュラムも実践本位の独自なものです。そのあたりについて、感想を聞かせてください。

荒巻　今、先生がおっしゃったように、この学科は試験時間が長いのですが、私は高校時代まで長い曲を吹く機会はほとんどなく、入学してすぐの試験で20分から30分間演奏するということで、吹き通せるか不安でした。呼吸法や口の使い方も、入学後に基礎からやり直した感じですね。でもそういう経験を積んだからこそ、楽な呼吸法、姿勢、力の抜き方などを自然と考えるようになり、今ではすごく楽に吹けるようになりました。コンクールでも、2次審査に進めば、当然20分くらいのプログラムを吹くことになりますので、それを毎回の試験で経験できるということは自信や安心感につながります。

波佐間　大学院のヴィルトゥオーソコースでは、毎週、レッスンの90分に加え、担任を含む4名の先生方に聴いていただく2時間の授業があります。前期はコンクールをたくさん受けていたこともあり、その課題曲を

波佐間成美 *Narumi Hazama*

福岡県出身。福岡雙葉高等学校卒業。第63回全日本学生音楽コンクール東京大会第1位・全国大会第3位等、受賞歴多数。現在、武蔵野音楽大学大学院修士課程声楽専攻ヴィルトゥオーソコース1年在学中、二期会研修所第55期に在籍。小畑朱実准教授に師事。



荒井茉里奈 *Marina Arai*

東京都出身。川村学園川村高等学校卒業。2010アジア国際音楽コンクール第1位他、受賞歴多数。日本・ハンガリー国交回復50周年記念演奏会で、武蔵野音楽大学管弦楽団と国内・ハンガリーで5回共演。現在、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科ピアノ専攻4年在学中、福井直昭教授に師事。

▲ 本学管弦楽団定期演奏会：荒井さん
（2009年9月9日　東京オペラシティコンサートホール）

▲ バーバラ・ボニー声楽公開レッスン：波佐間さん
（2010年9月5日　本学ベートーヴェンホール）

中心に指導していただきました。さまざまな角度からおっしゃることに応えなければいけません。二期会の研修所に行き始めたこともあって、そちらからの課題もあります。これらをこなすうえで、学部時代からたくさんの演奏をし、多くの先生方のおっしゃることを自分で咀嚼してきたことが役に立っていると思います。

會田　授業では、「演奏ゼミナール」と「舞台心理研究」が印象に残っています。「演奏ゼミナール」は音楽を多角的に、演奏家とは違った目線で見る授業で、音楽評論家としても第一線の先生方に指導していただきました。プレゼンテーションの機会も多く、自分たちから考えを発信していく練習にもなり大変有意義でした。「舞台心理研究」はステージに立つ際の心理的な緊張をどうやってコントロールするかというもので、自分の演奏に活かすことができました。

実はこの度、サントリーホール主催「レインボウ21」の企画申請が採択されました。僕が中心になり、「打楽器音楽、その創造と継承」というタイトルで現代邦人作曲家の作品を若い世代が継承していくための演奏会として企画したものです。こうした企画を立てるにあたっても、今お話ししたような授業での経験が非常に役立っています。

溝邉　2009年、武蔵野の室内管弦楽団と、ピアノの先輩と共にソリストとして協演することができました。アンサンブルがとても好きなので、自分が1人でオーケストラに対してソリストとして立つのではなく、ピアノとのアンサンブルでソリストができることが本当に楽しくて、滅多に演奏する機会のない作品を演奏できた貴重な経験となりました。グントナー先生が指揮者として大勢を率いて音楽を作っていく過程を間近で見られたことも、とても勉強になりました。

荒井　2009年、日本とハンガリー国交回復50周年記念の公演の際、武蔵野のオーケストラと共にソリストとして国内とハンガリーの演奏旅行に行けたことは、何物にも代え難い貴重な経験でした。日本とハンガリーの5つの大ホールで演奏したのですが、同じ曲を毎回違うピアノで違う音響の中で弾くという経験をし、自分が常に基準となるように確固たる演奏をしなくてはならない、さらにその上で楽器やホールに合わせて演奏を微調整していくというスキルを学んだ気がします。あと、メンタルとフィジカルの両面で自分をどうコントロールするのかということも学びました。また最近では、学部の卒業演奏試験として昨年12月、ベートーヴェンホールで約1時間のプログラムを演奏しました。公開のリサイタル形式でしたが、後から40人ほどの審査員の先生方に立ち会っていただいたとお聞きし、本当に有り難く感じました。

多くの素晴らしき師

福井　ヴィルトゥオーソ学科に限ったことではないのですが、武蔵野には優れた指導者がたくさんいます。皆さんが師事している、国内外の一流の演奏家でもある先生方を紹介ください。

波佐間　小畑朱実先生は、本当に音楽への愛と情熱を伝えてくださいます。先生ご自身の出演されるオペラを観ることによって、実際にレッス

ンで習っていることを感じることもできます。とにかくレッスン自体が愛そのものだと思います。

荒巻　私が師事している青山聖樹先生は、実際に自分はこのようにしているよというように、教えてくださることが具体的で為になります。またレッスン時間が90分と長いので、リードについての指導も度々してくださいます。オーボエはリードが命であり、リードの出来次第で音色などが変わってきますので、そのことを定期的に指導していただけるというのはとても勉強になります。

會田　僕は吉原すみれ先生にお世話になっています。先生は、演奏する際には作曲家の声に耳を傾けなさいということを常におっしゃいます。先生が実際に作曲家とかかわって仕事をした経験を惜しみなく授けてくださり、実に細かなところまでしっかりと指導してくださいます。本当に素晴らしい先生です。

荒井　福井直昭先生に師事しています。先生は最初から「こう弾きなさい」とはおっしゃらないで、まず私がどう弾きたいかを理解しようとしてくださいます。その後で、その作品への基本的なアプローチに続き、実に深く多様な解釈を提示してくださいます。私自身も先生のレッスンを通して、一つひとつすべての音に責任を持たなければいけないという自覚が生まれていますし、自分の音楽を追求したいという欲もすごく大きくなってきました。これから大学院に進みますが、今後も先生のもとで勉強したいと思っています。

溝邉　クルト・グントナー先生に師事しています。先生はドイツで長いあいだコンサートマスターとして活躍されてきました。私はもともとドイツ音楽、バッハとかベートーヴェン、ブラームスが大好きで、こうした作曲家の作品をドイツ生まれの先生からご指導いただき、とても勉強になっています。先生はレパートリーを増やすために、本番と本番の間に1ヵ月あれば曲を変えるんです。このように短いスパンで曲を仕上げていくということが、大変勉強になっています。

ヴィルトゥオーソ学科の魅力

福井　皆さんに続く後輩たちに向けて、ヴィルトゥオーソ学科での経験を通し、この学科の魅力を伝えてもらえますか。

波佐間　私は昨年9月、世界的ソプラノ歌手のバーバラ・ボニー先生の公開レッスンを受けることができました。中学生の頃からずっと大好きな歌手でしたので、最初はガチガチに緊張していたのですが、ボニー先生はどんなときでも、例えば悲しい歌を歌うときでも、いつも幸せな気持ちで笑顔でいないといけないということを教えてくださいました。本当に幸せに満ちたレッスンでした。こんな素晴らしい体験ができたのも武蔵野にいるからだし、ヴィルトゥオーソ学科で学んできたからこそ私自身、あの場に立てたのだと思います。

荒井　先程からお話に出ているように、さまざまな舞台に立つことで、実践力を養えるということはヴィルトゥオーソ学科で学ぶことの大きな

▲ 本学ベートーヴェンホール落成50周年記念
“ベートーヴェンの夕べ”：左端が荒巻さん
（2010年10月15日　本学ベートーヴェンホール）

會田瑞樹 *Mizuki Aita*

宮城県出身。宮城県仙台第二高等学校卒業。日本現代音楽協会・朝日新聞社主催第9回現代音楽演奏コンクール「競楽Ⅸ」第2位他、受賞歴多数。現在、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科打楽器専攻3年在学中、吉原すみれ教授に師事。

▲ ニュー・ストリーム・コンサートXIV
ヴィルトゥオーソ学科演奏会：會田さん
（2010年11月17日　トッパンホール）

荒巻友利恵 *Yurie Aramaki*

千葉県出身。習志野市立習志野高等学校卒業。I.ゴリツキー教授のマスタークラス受講。現在、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科オーボエ専攻3年在学中、青山聖樹准教授に師事。

メリットだと思います。私はハンガリーにも行きましたし、東京オペラシティコンサートホールやトッパンホール、ヤマハホール、サントリーホールなどでも演奏しました。今後も3月に桃華楽堂での御前演奏、4月に調律師協会の演奏会に出演させていただくことが決まっています。

溝邉　私も武蔵野の同窓会支部主催の公演にいくつか出させていただきましたし、都内のホールではソリストの時にカザルスホールで演奏しました。今後は、3月に音楽大学フェスティバルオーケストラへ参加します。

荒巻　昨年10月、ベートーヴェンホール落成50周年記念の演奏会で、一流の演奏家である先生方とベートーヴェンのピアノ五重奏曲を演奏する経験をさせていただきました。ヴィルトゥオーソ学科で学んできたからこその貴重な経験だったと思っています。あと、1年生の時にゴリツキー先生のレッスンを受講できたのも、この学科の学生だったからだと思っています。あのレッスンがなかったら、いまの基礎的な部分は身についていなかったでしょう。

會田　この学科は、1学年20名程度なのですが、その中にピアノ、管打弦、声楽専攻の学生が一緒にいるので、それがすごくいい刺激になります。そのために様々な楽器によるアンサンブルが自然にできるのも、この学科ならではの特色ではないでしょうか。ここは、「何よりもまず音楽を」という姿勢が貫ける場所です。刺激的な仲間たちがいて、付きっきりで見てくださる先生がいて、そのうえ恵まれた素晴らしい環境があります。

福井　最後になりますが、ヴィルトゥオーソという言葉は、実はその語源が「美徳」を指すラテン語virtusであることから、単なるテクニシャンを指すものではないことを、皆さんには分かって頂きたいと思います。つまり技術と芸術性の両方を兼ね備えてこその名人芸なのです。そして将来プロの演奏家になるためには、演奏だけではなく、社会における様々な人々との交流を円滑に行うことが必要となります。つまり音楽面においても人格面においてもこの「美徳」ということが大切になるのです。そして今私がお話ししたことは、まさに武蔵野の教育の方針「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」に一致します。この事を念頭において、これからもたゆまぬ努力を重ねていってください。

▲ 本学室内管弦楽団演奏会：溝邉さん
（2009年7月10日　日本大学カザルスホール）

溝邉奈菜 *Nana Mizobe*

東京都出身。東京都立芸術高等学校音楽科卒業。2010年、音楽大学フェスティバル・コンサート2010に出演。第11回大阪国際音楽コンクール入選。現在、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科ヴァイオリン専攻3年在学中、クルト・グントナー教授に師事。

・音・楽・余・話・ メトネルの“物差し”

「もっと強く」「もっと弱く」「クレッシェンド！」「デクレッシェンド！」…これらは、あらゆる楽器のレッスンでもっとも頻繁に聞かれる指示であろう。しかし、教育者としても優れていた作曲家メトネルの表現は少し違っていたらしい。「50ではダメだ、65だ…」「45ではうるさい、15くらいまで落として…」「きみは70で弾いているが80で弾きなさい」あるいは「40から100までクレッシェンド！」などなど…。彼は、pppp（最弱音）からffff（最強音）までを、0から100まで目盛りをつけた、いわば物差しのような図式で示し具体的な数字を伝えることで、生徒たちにしかるべき強弱を指示していた。

そのメトネルに引き取られ、里子として育てられた女流ピアニスト　リュドミラ・ヤコウレヴァは、メトネルの精神的所産の後継者といえる人物であったが、後年ブルガリアに居を移した彼女がソフィアで行ったリサイタルを聴いて感銘を受けた私と妻ジュリアは、その場でこの素晴らしいピアニストの楽屋を訪ねて友人となり、さらには自分たちの息子の名付け親になってもらうほど親しくなった。そして、彼女が所蔵していた師メトネル自筆のノートなどを見せてもらう機会にも恵まれた。前述の指導法は、そのノートに書かれていたのである。

0から100まで強弱の段階を示したこのユニークな“物差し”は、私が考えるに、ひとつには、さまざまなレヴェルのディナーミク（強弱）を正確に弾き分けるため、もうひとつには、その幅を広げるために大いに役立つ。

さて、このリュドミラ、私たちの息子にとっては最初で最後のピアノ教師ともなったが、その話はまた別の機会にゆずるとしよう。（訳：重松万里子）

コンスタンティン・ガネフ
（本学客員教授）

設置50周年を迎えた ベートーヴェンホールのパイプオルガン

▶手前が加設されたデジタルメモリーの操作ボタン

ウィーン・ムジークフェライン、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ロンドン・ロイヤルアルバートホール等、世界の名コンサートホールには規模に相応しいパイプオルガンが正面に置かれ、その音楽空間の象徴となっています。

1960年(昭和35)に日本初のシンフォニーホールとして竣工したベートーヴェンホールは、武蔵野音楽大学の顔ともいうべき存在。翌年完成したパイプオルガンは、まさしくその象徴です。当時、アジア圏最大規模の本楽器を手がけた武蔵野は、演奏会用パイプオルガンの設置においても嚆矢となりました。

オルガン製作会社をドイツ・ボン市のヨハネス・クライス社と決定した57年(昭和32)10月、学園はベートーヴェンホールの設計図を送付して設計を依頼。以来2年間にわたり、同社との間で、建築上、音響上、その他あらゆる面にわたり十数回の文書による意見交換が行われました。ホール建築期間中、ドイツの工房ではオルガン製作が着々と続けられました。横浜港に到着したオルガンの部材は、2人のドイツ人技師を中心に4ヵ月かけて組み立てられ、外装の製作と木工技術では日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社)の協力を得ました。

このオルガンの第一の特徴はコンサート・オルガンであるということ。音楽ホールに設置される大型パイプオルガンは、幅広いレパートリーに対応できなくてはなりません。そこで、バロックの音色群を基本に、良質な音を得るために風圧を低く抑えながらもロマン派、特にフランス近代のレパートリーに不可欠な音色を採用しています。第二は、オルガン全体を壁に埋め込むことなく、ステージ正面に置くことにより、ホールの豊かな音響を活かしているという点。また、総計4,140本のパイプを4段の手鍵盤と足鍵盤に配置していることが、木製ケースに囲まれた外観からも分かります。新時代の到来を告げるべく、非対象な前面デザインとともに右側の低音パイプには銅の合金を採用し、伝統的な錫と鉛にくらべ柔らかな音質を生み、ステージに気品を与えています。

また現代のパイプオルガンに求められるのは、ソロ曲の演奏だけではありません。――サン・サーンス「交響曲第3番」、R.シュトラウス「祝典前奏曲」、シューマン「ミサ」、フォーレ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、ウォルトン「クラウン・インペリアル」――これらオーケストラや合唱、吹奏楽の曲目は、本学学生メンバーが昨年1年間に本オルガンを使って行ったリハーサル、演奏会のコンサートプログラムの一部です。

学内に6台あるパイプオルガンのうち、規模では入間キャンパス・バッハザールに首位をゆずったものの、2度目の改修で8,000のデジタルメモリーを加設するなど、さらなる発展を遂げています。

巨匠ウィルヘルム・ケンプのバッハ演奏で始まった50年前の落成式の様子は、翌日のNHKラジオでも放送されました。当時の理事長・学長で、学園の創立者でもある福井直秋先生は「オルガン音楽の施設や教育が遅れておりますわが国で、このオルガンがこれらの向上にいささかでもお役に立つことが出来れば幸いに思います」と述べられました。

(文／藤枝照久准教授)

関連演奏会

ヘトヴィヒ・ビルグラム オルガン・リサイタル
J.S.バッハ:前奏曲とフーガ イ短調
ラインベルガー:ソナタ 第4番 Op.98 他

ヘトヴィヒ・ビルグラム(Cemb.) 公開講座
テーマ:「バッハのイギリス組曲第3番について」

「バッハの夕べ」
クルト・グントナー(Vn.) & ヘトヴィヒ・ビルグラム(Cemb.) デュオ・リサイタル
J.S.バッハ:6つのヴァイオリン・ソナタ

※詳しくはP14を参照

第17回 武蔵野音楽大学 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ

プロの音楽家を目指す方、音楽教育に携わる方に、専攻実技を磨くまたとない場を提供する「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」。今年も豪華教授陣を揃え、次の日程・内容で開催します。

A.v.アルニム

B.ベルマン

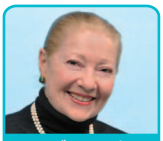
A.セメツキー

L.ナトチェニー

J.プラッツ

U.ヘルシャー

P.ベルノルド


M.グリエルミ

堀内康雄

【開講期間・会場】
平成23年7月19日(火)～29日(金)
武蔵野音楽大学　江古田キャンパス

【開設講座及び講師】
◎ピアノ ＝A.v.アルニム、B.ベルマン、A.セメツキー、L.ナトチェニー、J.プラッツ
◎ピアノ・デュオ＝A.セメツキー
◎ヴァイオリン／弦楽クヮルテット＝U.ヘルシャー
◎フルート＝P.ベルノルド
◎声楽＝M.グリエルミ、堀内康雄

【募集人数・応募資格】
1講座につき10～12名。ピアノ・デュオ、弦楽クヮルテットはグループで受け付けます。専門的教育を受けている方。国籍不問。ただし声楽は20歳から50歳まで。

【受講時間】
ピアノ、ピアノ・デュオ、ヴァイオリン、弦楽クヮルテット＝1回90分で3回。フルート、声楽＝1回60分で4回(講師により当該時間を変則的に組替える場合があります)

【受講料】
1人120,000円、ピアノ・デュオは1人70,000円、弦楽クヮルテットは1人40,000円(レッスン料、通訳料、演奏会・音楽セミナー入場料、懇談会費等を含む)

【演奏会等】
ピアノ、声楽講師によるリサイタル、ピアノ音楽セミナー
※詳しくはP14を参照

【お問合せ・要項請求】
要項は、4月に発行。武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120へ募集要項をご請求ください(要項は無料、送料は大学が負担します)。また、ホームページ、携帯サイト(アドレスは裏表紙参照)からもお申し込みができます。

講師の病気、その他やむを得ない事情により、一部内容を変更する場合もありますので、予めご了承ください。

武蔵野音楽大学合唱団『イリス』共演

去る1月30日、武蔵野音楽大学合唱団(合唱指揮：横山修司)は、東京芸術劇場と読売日本交響楽団との共同制作、マスカーニ作曲歌劇「イリス」(セミステージ形式)に出演しました。

このオペラの上演は大変めずらしく、25年前に初演されてから今回で3回めの上演となります。指揮・演出の井上道義氏は「この作品は日本人が等身大で演じ、歌うことの出来る数少ない西洋オペラの一つであり、そういった意味でも、日本でこの作品が上演されることには価値があるのではないでしょうか」とこのオペラの普及に尽力され、2008年の再演には、三菱UFJ信託芸術音楽賞の奨励賞を受賞するなど、作品としての評価も高まったオペラです。

本学合唱団は読売日本交響楽団と前回に引き続きの共演となり、情熱的な旋律と壮大な≪太陽賛歌≫を熱演し、多くの観客の印象に残りました。出演した学生にとって、本格的な演奏会への参加は、プロの仕事に触れられる貴重な体験であり、今後の学修の励みとなりました。

大学附属三音楽教室による合同演奏会

昨年11月14日、江古田キャンパスベートーヴェンホールにて、大学附属江古田・入間・多摩の三音楽教室による合同演奏会が行われ、子どもたちの力演に会場から惜しみない拍手が送られました。まず前半は、各教室で選抜された生徒によるピアノ、マリンバ、ヴァイオリンの独奏。また後半では、一昨年に引き続き、エクセレンス・コースの生徒(ヴァイオリン1名、ピアノ2名)をソリストとして、バッハとハイドンのコンチェルトが演奏されました。共演したのは、在室生によって編成された弦合奏です。そしてプログラム最後の曲目は、この弦合奏によるバルトークのルーマニア民俗舞曲。エネルギッシュな演奏で華やかなフィナーレとなりました。

着任外国人教授紹介（平成23年度前期）

イリヤ・イーティン *Ilya Itin*（ピアノ／アメリカ）

モスクワ音楽院にてL.ナウモフに師事。ウィリアム・カペル国際ピアノコンクール第2位、ロベール・カサドシュ国際ピアノコンクール第1位、1996年リーズ国際ピアノコンクールにおいて優勝。クリーヴランド管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、ロンドンフィルハーモニー管弦楽団等と協演する他、S.ラトル、N.ヤルヴィ、V.シナイスキー、M.プレトニョフなど著名な指揮者と共演。ニューヨーク市立大学、プリンストンのゴランスキー・インスティテュートにて教鞭をとり、ジュリアード音楽院にも度々招かれている。'11年4月から本学客員教授として1年間招聘。

ケマル・ゲキチ *Kemal Gekić*（ピアノ／クロアチア）

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。'81年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。'85年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉賞受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。

ヘトヴィヒ・ビルグラム *Hedwig Bilgram*（オルガン・チェンバロ／ドイツ）

ミュンヘン音楽大学卒業。K.リヒターに学んだ。1959年ミュンヘンの国際ARD音楽コンクールのオルガン部門第1位。長年、リヒターの指揮のもとミュンヘン・バッハ合唱団、管弦楽団で宗教曲の演奏・録音を、またリヒターによるバッハのチェンバロ協奏曲全集の録音でチェンバロを担当した他、トランペットのM.アンドレとも多数共演。'98年までミュンヘン音楽大学でオルガンとチェンバロの教鞭をとる。ソリスト、室内楽奏者として世界各国で活発な演奏活動を行っている。

ロバート・ダヴィドヴィッチ *Robert Davidovici*（ヴァイオリン／アメリカ）

ルーマニア生まれ。ジュリアード音楽院にてガラミアンに師事。1983年カーネギーホール国際アメリカ音楽コンクール第1位受賞。以後幅広いレパートリーで世界的に演奏活動を行っている。大阪フィルハーモニー交響楽団、バンクーバー交響楽団等のコンサートマスターも務めた。フロリダ国際大学教授。

エレナ・オブラスツォワ *Elena Obraztsova*（声楽／ロシア）

レニングラード音楽院に学ぶ。チャイコフスキー国際コンクール優勝ほか受賞多数。世界各地の歌劇場で絶賛を浴び、オペラ歌手として不動の地位を獲得、現在も国際的に活躍中。ロシア共和国国家芸術家の称号及びレーニン勲章を授与される。現在、オブラスツォワ国際声楽コンクール総裁、ムソルグスキー記念サンクトペテルブルク国立ミハイロスキー歌劇場顧問。

レイ・E.クレーマー *Ray E.Cramer*（ウィンドアンサンブル指揮／アメリカ）

2005年までアメリカで最も優れた音楽学部として評価されているインディアナ大学で、吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、'09年まで世界的に権威のあるミッドウェスト・クリニック会長の要職を務めた。全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任する他、インディアナ大学最優秀教授賞、Phi Beta Mu 国際優秀賞等多くの賞を受賞。全米、日本等で客員指揮者、指導者、審査員として活躍している。

●表紙の顔

堀内康雄さん

堀内さんは、日本を代表するバリトン歌手の一人で、毎年7月に開催される「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」の講師として度々招かれています。

慶應義塾大学法学部卒業、1991年に渡伊。F.コレッリとG.パスティネのマスタークラスを受講後、ミラノ・ヴェルディ音楽院へ入学。G.カネッティのクラスで学び、発声法は、N.スカトッリーニに師事しました。'93年トゥールーズ国際コンクールで日本人男声として33年ぶりの優勝を果たし、ヴェネツィア・フェニーチェ座「ラ・ボエーム」でデビュー。以後ローマ歌劇場、リスボン・サンカルロス歌劇場、ハンガリー国立歌劇場でのオペラや、スペイン国営放送交響楽団、ボローニャ歌劇場管弦楽団の演奏会などに出演。日本では、'97年藤原歌劇団「椿姫」でデビューし、多数のオペラに出演するなど、国際的に幅広く活躍されています。'10年12月には本学管弦楽団合唱団演奏会、ブラームス「ドイツ・レクイエム」のソリストを務め、好評を博しました。

五島記念文化財団オペラ新人賞、ジロー・オペラ賞受賞。藤原歌劇団団員。

'12年4月から、武蔵野音楽大学教授就任予定。

【今後の音楽活動】

- ◆ 4月 「フランチェスカ・ダ・リミニ」／イタリア トリエステ・ヴェルディ劇場
- ◆ 7月 「第17回武蔵野音楽大学 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ スペシャル・コンサート」リサイタル／武蔵野音楽大学ベートーヴェンホール
- ◆10月 「イル・トロヴァトーレ」／アイルランド ダブリン国立コンサートホール
- ◆11月 東京文化会館50周年記念ガラ・コンサート
- ◆12月 「第九」東京都交響楽団 ／東京文化会館、サントリーホール

入間キャンパスに新たな彫刻が仲間入り

〔附属高等学校卒業記念石彫寄贈〕

本学入間キャンパスには、附属高等学校の卒業記念として、様々な彫刻作品が寄贈され、既に35基がキャンパスの自然の中に溶け込んで彫刻の森の風情をかもし出していますが、平成22年度も附属高等学校卒業生一同の卒業記念として、新たな石彫が寄贈されました。

作品は、昨年度に続き二科会会員、市川明廣氏作「ウサギ」。

地面を蹴って跳(と)び上がる。
身も心も躍(おど)り上がって進む。
この勢いこそ ウサギ の姿。
人生もそうでありたい。

と願って制作されたそうです。氏の言葉どおり、力強くエネルギーを感じる作品で、いみじくも卯年に巣立つ生徒への餞(はなむけ)の言葉と重なります。

入間キャンパスには同氏の作品が幾つか見られますが、この作品は、本学バッハザール1階に設置されている「元亀」（2004年同卒業生から寄贈された亀の石彫）の隣に設置され、バッハザールを訪れる人たちの目を楽しませてくれることでしょう。

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

コンクール・オーディション名	部門	詳細	氏名	学年・専攻
平成22年度文化庁長官表彰		文化庁長官表彰受賞	岸本　力	本学講師
第20回「朝日現代音楽賞」 第9回　現代音楽演奏コンクール“競楽IX”		第2位入賞	會田　瑞樹	大学3年次在学打楽器専攻
第12回　ショパン国際ピアノコンクール in　ASIA　アジア大会	一般部門	銅賞受賞（金賞なし）	伊藤　千恵	平成4年大学卒ピアノ専攻　本高校卒　本大学院修士課程修了
		奨励賞受賞（金賞なし）	前田　菜々子	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
	コンチェルトB部門	努力賞受賞	青木　佑磨	大学3年次在学ピアノ専攻
	小学5・6年生部門	参加賞受賞	入岡　美澪	附属江古田音楽教室在室　杉並区立桃井第一小学校5年生
第1回　ヨーロッパ国際ピアノコンクール in　Japan　全国大会	大学・一般A部門 自由曲コース	ディプロマ賞受賞	前田　菜々子	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
第16回　KOBE国際音楽コンクール	打楽器C部門	奨励賞受賞	山口　呉奈	大学3年次在学マリンバ専攻
第16回　宮日音楽コンクール	管楽器部門	優秀賞受賞	三雲　由佳	大学4年次在学クラリネット専攻
	声楽部門	優良賞受賞	小坂　奈朱花	大学3年次在学声楽専攻
第4回　近・現代音楽コンクール	大学・一般の部	銅賞受賞	能條　貴大	本大学院修士課程2年次在学ピアノ専攻
		奨励賞受賞	鈴木　裕加里	平成20年大学卒ピアノ専攻　本高校卒
第11回　北関東ピアノコンクール	ピアノソロ　一般Sの部	第3位入賞（1、2位なし）	鈴木　裕加里	平成20年大学卒ピアノ専攻　本高校卒
第20回 日本クラシック音楽コンクール　全国大会	ピアノ部門　一般の部（男子）	第4位入賞（1、2位なし）	長町　順史	平成3年大学卒ピアノ専攻
		入選	能條　貴大	本大学院修士課程2年次在学ピアノ専攻
	ピアノ部門　一般の部（女子）	入選	鈴木　梨紗	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
		入選	前田　菜々子	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
		入選	堀部　祥子	平成19年大学卒ピアノ専攻
		入選	皆川　慶子	平成元年大学卒ピアノ専攻
	ピアノ部門　大学の部（男子）	入選	大月　裕夫	大学3年次在学ピアノ専攻
	声楽部門　一般の部（女子）	入選	茂木　真由美	平成21年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程2年次在学
	ピアノ部門　中学校の部（男子）	入選	米川　周	附属江古田音楽教室在室　成城中学校1年生
第15回　東京国際室内楽作曲コンクール		入選	若松　祐子	平成16年大学卒作曲専攻　本大学院修士課程修了
第11回 ローゼンストック国際ピアノコンクール		第6位入賞（1位なし）	鈴木　梨紗	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
第11回 ANP ル・ブリアン フランス音楽コンクール	大学・一般の部	審査員賞受賞	岩出　剛	大学2年次在学ピアノ専攻
		審査員賞受賞	西澤　美穂	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
第9回　ブルクハルト国際音楽コンクール	ピアノ部門	審査員賞受賞	西澤　美穂	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学
	管楽器部門	入選	根本　晴佳	大学3年次在学フルート専攻
第7回 中津 An die Musik　ピアノコンクール	ソロ部門　自由曲の部 大学・一般コース	奨励賞受賞	内海　浩平	大学2年次在学ピアノ専攻
第4回 ベーテンピアノコンクール　全国大会	自由曲コース 大学・院生A部門	入選	鈴木　瑛子	大学3年次在学ピアノ専攻
第60回 ヘレン・ケラー記念音楽コンクール	弦楽器の部・ヴァイオリン	第3位入賞	株竹　大智	附属入間音楽教室在室　東京都立葛飾盲学校中学部2年生
第11回　スガナミピアノコンクール	D部門	銅賞受賞	久保　美結	附属江古田音楽教室在室　白百合学園小学校5年生
第2回　東京ピアノコンクール	小学高学年部門	審査員特別賞受賞	久保　美結	附属江古田音楽教室在室　白百合学園小学校5年生
第5回　西関東ジュニア・ピアノコンクール	Aブロック ピアノ・ソロ部門　D課程	優秀賞受賞	吉井　千晴	附属江古田音楽教室在室　杉並区立桃井第二小学校2年生
		メキシコ大使館賞受賞	清水　千夏	附属江古田音楽教室在室　聖徳学園小学校3年生

平成23年度　武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパス

本学では、武蔵野の教育理念・内容を理解していただくために、音楽大学、高等学校音楽科に進学を希望している高校生、中学生、小学生とその指導者、保護者の方々を対象に武蔵野音楽大学、同附属高等学校の学校説明会・オープンキャンパスを各地で開催しています。平成23年度は下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

日程	会場	申込締切
5月15日(日)	福井県福井市　福井県県民ホール	4月28日(木)
5月22日(日)	秋田県秋田市　秋田市民交流プラザ	5月6日(金)
5月22日(日)	沖縄県浦添市　浦添市てだこホール	5月6日(金)
5月29日(日)	福岡県春日市　春日市ふれあい文化センター	5月13日(金)
6月5日(日)	茨城県水戸市　常陽藝文センター	5月20日(金)
6月12日(日)	武蔵野音楽大学　江古田キャンパス ※大学のみの説明会となります	5月27日(金)
6月26日(日)	武蔵野音楽大学　入間キャンパス	6月10日(金)
7月17日(日)	福島県三春町　三春交流館「まほら」 ※「合唱指導講座」も行う予定です	7月1日(金)

【説明会の内容】
- 10：00～16：00（予定）
- ガイダンス（大学・高等学校別に行います）
- ミニコンサート　●受験相談（希望者のみ）
- ワンポイント・レッスン（希望者のみ）
- 参加無料（簡単な昼食を用意します）

【お申込み・お問合せ】
武蔵野音楽学園広報企画室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1
TEL.03-3992-1125　FAX.03-3991-7599
※4月上旬よりホームページ、携帯サイトからもお申し込みができます。

編集後記

ヴィルトゥオーソ（音楽の名手）――その呼び名に相応しいリストの生誕200年の年を記念し、キャンパス・アイでは同じ名を冠した学科に学ぶ皆さんに登場していただきました。福井直昭教授によれば、その語源はラテン語の「美徳」とのこと。音楽面のみならず人間的にもヴィルトゥオーソを目指したいものです（編）。

平成23年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学平成22年度音楽学部新人演奏会	4月26日㊋	18:30 津田ホール	￥1,500〈全席自由〉
武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート1	4月27日㊌	18:00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート2	4月28日㊍	18:00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学平成22年度大学院修士課程新人演奏会	5月18日㊌	18:30 津田ホール	￥1,500〈全席自由〉
ヘトヴィヒ・ビルグラム　オルガン・リサイタル 曲目＝J.S.バッハ：前奏曲とフーガ イ短調 BWV543　他	5月20日㊎	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
伊原直子　声楽公開レッスン	5月25日㊌	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ヘトヴィヒ・ビルグラム（Cemb.）　公開講座 テーマ＝バッハのイギリス組曲第3番について	5月26日㊍	18:30 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
「バッハの夕べ」～クルト・グントナー（Vn.）＆ヘトヴィヒ・ビルグラム（Cemb.）デュオ・リサイタル～ 曲目＝J.S.バッハ：6つのヴァイオリン・ソナタ	6月　1日㊌	18:30 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学平成22年度ヴィルトゥオーソ学科新人演奏会	6月　2日㊍	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
エレナ・オブラスツォワ　メゾ・ソプラノ・リサイタル ピアノ＝三ッ石潤司	6月　7日㊋	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
レインボウ21　サントリーホールデビューコンサート2011（主催：サントリーホール） 武蔵野音楽大学プロデュース「打楽器音楽、その創造と継承」	6月　8日㊌	19:00 サントリーホール ブルーローズ（小ホール）	￥2,000〈全席自由〉
ロバート・ダヴィドヴィッチ　ヴァイオリン・リサイタル ピアノ＝岡崎悦子	6月　9日㊍	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ニュー・ストリーム・コンサート15　ヴィルトゥオーソ学科演奏会1	6月28日㊋	18:00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
ケマル・ゲキチ　ピアノ・リサイタル	6月30日㊍	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会 指揮＝クルト・グントナー	7月　1日㊎	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
天羽明恵　ソプラノ・リサイタル	7月　5日㊋	18:30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ヴィルフリート・シュトレーレ（Va.）　公開レッスン＆コンサート ピアノ＝小池ちとせ	7月　9日㊏	17:00 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝レイ・E.クレーマー	7月11日㊊ 7月12日㊋ 7月15日㊎	18:30 京都会館 第一ホール 18:30 愛知県芸術劇場 コンサートホール 18:30 東京オペラシティ コンサートホール	一般￥1,500／学生￥1,000〈全席自由〉 一般￥1,500／学生￥1,000〈全席自由〉 ￥1,500〈全席指定〉
武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ			
◎世界の名教授たちによるスペシャル・コンサート			
ホルヘ・ルイス・プラッツ　ピアノ・リサイタル	7月22日㊎	18:00 ベートーヴェンホール（江古田）	￥2,000〈全席自由〉
堀内康雄　バリトン・リサイタル（ピアノ＝三ッ石潤司）	7月24日㊐	18:00 ベートーヴェンホール（江古田）	￥2,000〈全席自由〉
◎ピアノ音楽セミナー 講師＝レフ・ナトチェニー テーマ＝ベートーヴェン　ピアノ・ソナタの発展	7月26日㊋	18:00 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉

お問合せ　●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部　TEL.03-3992-1120　●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部　TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ http://www.musashino-music.ac.jp/ でも予約ができます。

平成23年度夏期講習会のお知らせ

平成23年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会（音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習※）を、下記のとおり実施します。
※教員免許状更新講習とは異なります。

講座名	会　場
大学受験講習会　①7/28～7/31　②8/2～8/5	入間キャンパス
高校音楽科受験講習会　7/28～7/30	
社会人のための夏期研修講座　7/29～7/31	江古田キャンパス
免許法認定講習　7/25～8/5	

◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）またはホームページ、携帯サイト（アドレスは裏表紙参照）にてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）

平成23年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成21年度、22年度に引き続き、平成23年度も免許状更新講習を開講します（現在認可申請中）。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導」18時間、合計30時間を開講します。

講習期間	会　場
①必修領域（12時間）　8/1・2　の2日間 ②選択領域（18時間）　8/3～5　の3日間	江古田キャンパス

◎要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）またはホームページ、携帯サイト（アドレスは裏表紙参照）にてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）

武蔵野音楽大学楽器博物館だより――

チェロ

J.B.ヴィヨーム作　19世紀　フランス　全長122cm

1872年、ロンドン西部サウス・ケンジントンの博物館を訪れたイギリスの文筆家チャールズ・リードは、展示されたヴァイオリンの名器を見て「ヴァイオリンは目で聴く」と述べた。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロといった「ヴァイオリン族」の楽器は、その音のみならず、外観の美しさからも人を魅了する。洗練された優美な胴のデザイン、光の具合により様々な色彩を放つニスなど、ヴァイオリンの持つ完璧なまでの工芸美に取りつかれる収集家も少なくない。特にストラディヴァリに代表されるイタリアのオールドヴァイオリンは、世界中の演奏家や愛好家が追い求める対象である。そして、これらのイタリアの名器に匹敵する美しい楽器を作り上げたのが、写真のチェロの製作者、ヴィヨームである。

ヴィヨームは、19世紀のフランスにおけるヴァイオリン製作の重鎮で、生涯に数多くの楽器や弓を製作した。また、彼はディーラーとしても活躍し、多くのイタリアのオールドヴァイオリンを取り扱った。そして、集めた名器を参考にすることで、イタリアヴァイオリンの特徴を備えた、優れた品質の楽器を世に送り出した。彼の楽器を際立てるのはそのニスの美しさで、オールドヴァイオリンを髣髴させる深遠な魅力を備えている。ヴィヨームの楽器は音も高く評価され、多くの著名な演奏家が彼の楽器を愛用している。

写真の楽器は、長年本学で教鞭をとったヴァイオリニスト、故ルイ・グレーラー教授の紹介により本学博物館に納入された。グレーラー教授は、この楽器を博物館に納めることで、その美しさと豊かな音が末永く維持されることを望んだ。深い暗赤色のニスが塗られたこの楽器の美しさは、リードが受けた感動を今の私たちに伝えてくれる。

（武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵）

目 次

平成23年度を迎えて …… 1
福井直敬

リスト生誕200年に寄せて …… 2
福田　弥

音楽の万華鏡 …… 5
声楽と器楽 ― ラファエロの「聖チェチリア」　寺本まり子

Campus Eye …… 6
“音楽の名手”を目指す日々の研鑽
～武蔵野音楽大学 ヴィルトゥオーソ学科に学んで～

音楽余話 …… 9
メトネルの“物差し”　コンスタンティン・ガネフ

MUSASHINO NEWS …… 10
- 設置50周年を迎えたベートーヴェンホールのパイプオルガン
- 第17回 武蔵野音楽大学 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ
- 武蔵野音楽大学合唱団『イリス』共演
- 大学附属三音楽教室による合同演奏会
- 着任外国人教授紹介
- 入間キャンパスに新たな彫刻が仲間入り
- 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
- 平成23年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパス
- 平成23年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ
- 平成23年度夏期講習会のお知らせ
- 平成23年度教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

発　行
学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1 TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728 TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1 TEL.042-389-0711（代表）
http://www.musashino-music.ac.jp/

2011年4月1日発行　通巻第97号

携帯サイト
http://musaon.jp/